ひと・くらし・みらい AKARUISHAKAI

明るい社会

No.686

北のまちから あったかハート
ほっとちゃん
北海道内社会福祉協議会イメージキャラクター

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金
ここにも役立てられています

3
2017年度

目次

特集 「ともに生きる力」を育む福祉教育
～おもちゃ図書館の事例から～ 2

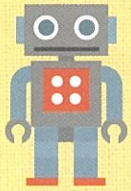
共同募金会からのお知らせ 7
「ほっとチャンネル」①市民活動団体の活動紹介 8
②市町村社協の活動紹介 9
道内福祉施設・事業所・団体紹介「はぁとステーション」 10
「ほのぼのカフェ」ほっとちゃんクイズ 10
授産製品紹介「きらきらマルシェ」 11
INFORMATION・北まち情報室 12

特集

「ともに生きる力」を育む福祉教育

～おもちゃ図書館の事例から～

近年、主に子どもたちを対象とした福祉教育は、
多様性を認め合う社会づくりをテーマとして多くの実践が行われています。
そうした実践の場として期待されるものの一つに
「おもちゃ図書館」があります。



「おもちゃ図書館」とは、
子どもたちにおもちゃで遊ぶ場や機会を提供する場であると同時に、
おもちゃを媒体として障がいの有無を問わず
子ども同士の交流が期待される場でもあります。
今号では、近年推進されている福祉教育の傾向について触れるとともに、
「おもちゃ図書館」の全国的な活動状況や
北海道内の事例を寄稿いただきましたのでご紹介します。

福祉教育の大切さ

現在日本は、少子高齢社会・人口減少を起因とした地域課題の多様化や複雑化、社会的孤立など、多くの課題を抱えています。

中でも、認知症高齢者の増加、若年者のひきこもり、制度の狭間で困窮する子どもの貧困問題、子育て不安や介護疲れ等による児童や高齢者への虐待、地域の担い手不足などの問題は、地域の抱える福祉課題において、非常に深刻な状況にあることが考えられます。

これらへの対応策として、国は「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを推進しています。

「地域共生社会」とは、高齢者や障がい者、生活困窮者や子どもなど全ての人々が地域で暮らし、生きがいを共に創り、高め合う社会であり、その実現のために、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、互いに支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを形成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことを指します。

この社会を実現するためには、これまで『他人事』と考えられてきた地域の課題を地域住民が『我が事』と捉えられるように関心を促し、地域活動への参加を通して人間形成を図っていくことを目標とした地域住民への福祉教育の推進が望まれます。

このことは、次世代の地域福祉を担う子どもたちも例外ではありません。

子どもたちには就学前、義務教育、高等教育といった成長段階に応じた福祉教育やボランティア活動などを通して、福祉に関する意識や理解を育み、将来、地域福祉の担い手として活躍できるような人材を育成する場を設ける必要があります。

「福祉教育」には、3つの「基本の学び」があります。

①「ふだんの・くらしの・しあわせ」を具現化する実践力を育む学び
②共に生きる力を育む学び
③地域の社会福祉活動に参加する機会を与えやすくするための学び

これらの基本の学びをベースに、近年は誰一人排除せず、一人一人の

違いを個性として認め合い、支え合う「社会的包摂」に向けた福祉教育が推進されており、前述した「地域共生社会」と考え方に重なりが見られます。

これらのことから、今号では「福祉教育」の中でも「基本の学び」である「共に生きる力を育む学び」に焦点を当てます。

福祉教育とおもちゃ図書館の関連

子どもたちが楽しく、わかりやすく福祉教育を学ぶためには、普段の遊びや関心の持ちやすいものを通して行うことが重要だと考えられます。

そうした遊びを通して福祉を学ぶことのできる場の一つに「おもちゃ図書館」があります。

「おもちゃ図書館」とは、おもちゃの利用や貸し出しにより、子どもたちにおもちゃで遊ぶ場や機会を提供しています。

この「おもちゃ図書館」は、障がいの有無を問わず、おもちゃを通して子どもたちがともに遊んだり交流することにより、障がいや多様性の理解を促す福祉教育の場として活用することが考えられます。

現在、全国各地に「おもちゃ図書館」があります。各館により利用対象者は多少異なりますが、この遊び場を通して、障がいや多様性を理解することができる場所、または、子どもたちの居場所となることが期待されます。

今回は、この「おもちゃ図書館」の活動について、全国的な活動状況や北海道内の2団体による活動事例を寄稿いただきましたのでご紹介します。

全国的な活動状況

おもちゃの図書館全国連絡会

設　立：1983年
理事長：小泉　康代
会員数：389館（うち北海道の市町に11館、札幌市７館）
連絡先：東京都荒川区町屋２－７－５
電　話：０３－６８０７－８８１３
ＦＡＸ：０３－６８０７－８８６３
E-mail：renrakukai@toylib-jpn.org
ＵＲＬ：http://www.toylib-jpn.org/

子どもの笑顔があふれています ～おもちゃ図書館～

「おもちゃ図書館」は、「障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを」、「障がいのある子と家族が、気兼ねなくほっとできる居場所を」との願いから始まったボランティア活動です。

１９８１年、国際障害者年（※1）を機に全国各地でボランティアの手により「おもちゃ図書館」の活動が広がりました。

現在は、障がいのある子もない子も共に育ちあう場として、子育て中の親子が楽しく過ごせる場として活動が取り組まれています。

子どもは、遊びを通して育ちます。また、「おもちゃ」は遊びを豊かにする道具の一つです。そのため、おもちゃ図書館には、子どもたちの成長に合わせた国内外のおもちゃやボランティアによる布、木の手作りおもちゃがあります。子どもたちは、気に入った「おもちゃ」で遊び、それを借りて帰ることができます。

地域の多世代のボランティアが活躍！

「おもちゃ」での遊びをより楽しくするのは、子どもの隣に寄り添い、一緒に喜んだり驚いたりしてくれるボランティアの存在です。

ボランティアの主な活動としては、子どもたちと一緒に遊ぶ、事故が起きないように「おもちゃ」を清潔にし、細かな部品の整理をする、機関紙やホームページの製作、行事の企画運営、おもちゃの修理、手作りのおもちゃの製作など、それぞれのボランティアの特技を活かして取り組

んでいます。子どもから高齢者までの老若男女、障がいのある人たちもボランティアとして活躍しているのも「おもちゃ図書館」の魅力です。

一方、ボランティアの高齢化により、引き継いでくれる人がいないことから閉館するおもちゃ図書館もあり、ボランティア活動で継続をしていくことの課題もあります。

みんな違ってみんないい

障がいのある子をもつ親の中には、地域の「子育てサロン」には足を運びにくいという声を聴くことがあります。我が子の障がいの受容については、時間が必要であり「おもちゃ図書館」だからこそ、一緒に寄り添える場になるのではと考えます。

また、地域の中で子どもたちが遊ぶ姿が減り、多世代の人々との交流が乏しくなっている今、「おもちゃ図書館」の果たす役割があるとも考えます。

「おもちゃ図書館」の活動日は、月1回～2回の開館から常設まで、場所も公共施設や福祉施設、病院、商店街の店舗など様々です。

最近は、高齢者福祉施設で子どもと高齢者が交流できる場として、障がい児のディサービスや子育てサロンにも広がっています。

おもちゃの図書館全国連絡会では「障がいのある子もない子も共に育ちあい心のバリアフリーを育てる場」をつくることを目指し、情報交換や研修会の実施、情報誌「トイ・ポスト」の発行、また、新しく「おもちゃ図書館」をつくるための相談支援などの活動も行っています。

北海道内には11館、札幌市内は7館が全国おもちゃの図書館連絡会に加入しています。本会のホームページで探すことが出来ますので、是非お近くのおもちゃ図書館に行ってみてください。

（寄稿　NPO法人おもちゃの図書館全国連絡会　副理事長 鈴木 訪子 氏）

（※1）国際障害者年…1976年国際連合が、障がい者の権利宣言の趣旨に基づき、1981年を国際障害者年とすることを宣言し、障がい者の「完全参加と平等」の実現を目指して、各国で集中的な行動を行うことが決定された年。その後の障がい者の社会参加に大きな影響を与えた。

動例介活事紹

士幌町
中士幌おもちゃの図書館「ぱんぷきん」

おもちゃ図書館「ぱんぷきん」に取り組んだきっかけ

中士幌児童ステーションは、「軒先から軒先まで」をモットーに、町内全域の就学前の子育て家庭の支援を目的とした子育て支援カーを開発しました。完成と同時期に有珠山が噴火したため、子育て支援カーの最初の仕事が有珠山被災地の子どもたちの支援活動になりました。その時の支援ボランティアとして集まったメンバーをベースに結成されたボランティアグループが「ぱん・ぱん・ぱんぷきん」であり、現在は、当ステーションやおもちゃ図書館のボランティア活動を行っています。

その後、子育て支援カーを使った在宅育児支援活動として、移動図書館でおもちゃの貸し出しを行う「かぼちゃの日」や、各家庭に訪問して育児支援を行う「あそびの宅急便」を実施しました。次第に、外に出る機会の少ない障がい児家庭からの育児支援の要請が増え、今後の事業の発展を考えたときに、独立した「おもちゃ図書館」の必要性を痛感し、開設するにいたりました。

「ぱんぷきん号」の誕生

士幌町は、大規模農業地帯で、広大な地域に小規模へき地保育所、へ

日本初の子育て支援カー「ぱんぷきん号」

き地小学校が、それぞれ6か所点在しています。この現状にあって、子育てを支援する子育てセンターと児童の健全育成を支援する児童センターは当ステーション1施設しかありません。両センターは時間的、距離的な制約がついてまわり、来所できない子育て中の親子や児童が多数いました。

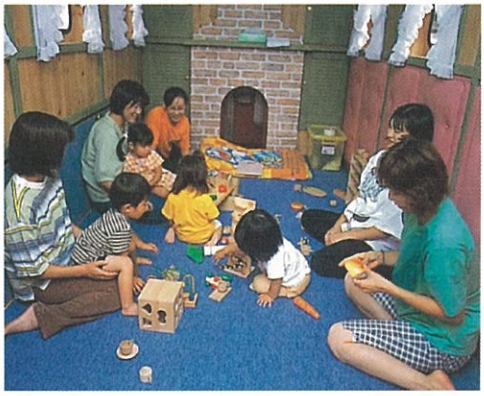
そのため、これらの親子や児童に対して、子育て支援・児童支援を届けるために、様々な子育て機能を整備した日本初の子育て支援カー「ぱんぷきん号」を開発し、こちらからニーズのあるところに出向くという巡回子育て児童支援を開始しました。

活動状況

活動としては、月に4、5回程度で、1回につき4時間ほどの活動です。利用者数は1回につき5~6組(10~12人)であり、ボランティアの数は8名ほどです。おもちゃの図書館を介して人と人との触れ合いを大事にしており、また、人との輪が広がることをとてもうれしく感じています。

運営の課題としては、まだまだおもちゃが不足している状態です。

しかし、ぱんぷきん号を利用している地域の方々からは、便利なため利用を続けたいという声が多く寄せられており、今後も地域に根差した活動として取り組んでいきたいと考えています。



「ぱんぷきん号」の中で遊ぶ子どもたちの様子

士幌町

中士幌おもちゃの図書館「ぱんぷきん」

設　立：昭和26年4月1日
法人名：社会福祉法人　温真会
理事長：松浪　浩之
住　所：河東郡士幌町中士幌西2線80－25
電　話：01564－7－4446

活動例介紹

釧路市

釧路市おもちゃライブラリー「釧路市女性団体連絡協議会」ボランティア＝サークルあそぼ

釧路市おもちゃライブラリーとは？

おもちゃライブラリーの発祥は北欧のトイライブラリーです。お母さんたちが、「障がいのある子ども達にも豊かな遊びを」との思いから、おもちゃを持ち寄って始めました。

釧路市でも女性団体連絡協議会の前身である婦連協が熱い思いをもって設立し、35年が経ちました。設立から現在に至るまで、赤い羽根共同募金の助成を受けて運営しています。

また、おもちゃの図書館全国連絡会に加入し、おもちゃ図書館財団からおもちゃの寄贈などをいただくこともあります。

現在は、小学校の空き校舎の一部を教育委員会より借りて、常設開館しています。

障がいのある子もない子もともに遊び、育ちあう場として、またお母さんやお父さん達も気軽に集い、出会い、交流し、ほっとできる時間を過ごせるように、孤独な育児にならないことも願って活動しています。

また、発達支援センター通園の子どもたちも年数回、みんなでおもちゃライブラリーに遊びに来てくれます。ボランティアスタッフは子どもたちを見守り、一緒に遊び、時には相談を受けたり、のんびりゆったり過ごせるようにと配慮しています。

釧路市おもちゃライブラリーの活動の様子

活動状況

おもちゃライブラリーは、毎週水曜日の10時から14時まで開放されて

います。対象は、幼稚園や保育所に入園前の子ども達となっているため、年々低年齢化していますが、毎年2千人を超える親子が利用しています。

おもちゃライブラリーでは、木のおもちゃや絵本、遊具を含め一千点を超えるおもちゃを一人3点まで、2週間無料で借りることができ、団体やイベントへの貸し出しもしています。

また、おもちゃライブラリーでは、折り紙教室やスタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊びなどを行っており、クリスマス会や節分ひな祭りなど季節の行事も大切にしています。その他、お弁当を持参するとランチタイムをみんなで楽しむことができます。

さらに、おもちゃのお医者さんが毎週おもちゃライブラリーに来てくれるため、おもちゃの修理をお願いすることもできます。

おもちゃライブラリーの課題と今後

どこのおもちゃ図書館も課題はボランティアスタッフの高齢化と資金難です。釧路市おもちゃライブラリーでは、週一回の開館が精いっぱいであり、以前のような資金集めができなくなっています。スタッフは無償ボランティアで交通費も払えない現状ですが、活動に意義を感じて、子どもの笑顔を見られるのが嬉しいと、喜んで参加しています。

この楽しいボランティア活動を次世代へバトンタッチするためにも随時ボランティアを募集しています。

子どもたちとボランティアさん

釧路市

釧路市おもちゃライブラリー

設　立：昭和58年3月
運営団体：釧路市女性団体連絡協議会
会長：平間　育子　TEL：0154-25-7567

ボランティア＝サークルあそぼ

代　表：後藤　哲子
運営人数：13名（内男性3名）
住　所：釧路市弥生2丁目1番
（旧東栄小学校内）駐車場有
電　話：080−8629−0168
（水曜日のみ）

道内のおもちゃ図書館について

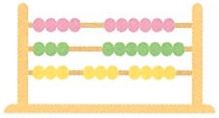
釧路おもちゃライブラリーを含む、道内数カ所あるおもちゃ図書館は、北海道おもちゃ図書館連絡会というネットワークに加入しています。

北海道おもちゃ図書館連絡会は、以前活動を休止していた時期もありましたが、近年再結成しました。活動内容は、年1回集まって研修交流会を開催し、顔を合わせて情報交換をしています。

おもちゃ図書館に期待されること

おもちゃ図書館は、地域の子どもたちが交流し、障がいや多様性を理解する居場所となり得るとともに、親やボランティアなど地域の人々が、「子どもを育てる」という共通の目的をもって交流することのできる場としても期待されます。

皆さんも、お近くのおもちゃ図書館へ足を運んでみませんか。



知的 快適 創造的オフィス創りで地域に貢献する

サンコー事務機株式会社

お客様の変えたい・良くしたいを「カタチ」にするオフィス・施設の総合ディーラー

〒060-0013 札幌市中央区北13条西18丁目36番90
TEL 011-614-2255（代表）FAX 011-614-5245 URL http://www.sancoh.gr.jp/

取扱品目
OA機器全般の販売・レンタル、オフィス関連商品の販売、プロバイダー事業、ＩＣＴ関連機器の販売、ネットワークシステムの構築、小冊子などの印刷を行うドキュメントサービス、情報システムの提案・導入・保守、基幹系業務（販売管理・給与計算・財務）等をはじめ、その他各業種業務用パッケージソフト提案・導入・保守、OA機器の保守、点検、修理等、福祉機器関連商品の販売、NTT商品取次、その他、オフィス・施設の環境をよりよくするための一切の事業

IS503035/JISQ27001:2006
当社はISMS認証企業です。

赤い羽根共同募金からのお知らせ

～寄付金付き宅配飲料～
ジュースを飲んでゴクゴク募金について

北海道コカ・コーラボトリング株式会社様のご協力により、宅配飲料の売上の一部が**赤い羽根共同募金**へ寄付されます。

専用のお申込書によりＦＡＸまたはＥメールにて注文いただくと、飲料１本あたり3円～5円が募金となります。(注文は1箱～となります)

会議、集会、イベント等、いつもの飲み物を、**「じぶんの町を良くするしくみ。」**にかえてみませんか。

※詳細は北海道共同募金会ホームページをご覧ください。
http://www.akaihane-hokkaido.jp/event.html#170324

「赤い羽根共同募金助成金」１次募集について

北海道共同募金会では、安心・安全で住みよい福祉のまちづくりのため、住民が自発的・組織的に行う創造性豊かな社会貢献活動や、地域における子育て支援活動など、柔軟かつ多様な福祉活動を行っている団体・グループを対象に、助成事業の公募を年２回行っています。(１次募集：3月／２次募集：９月)

●募集概要

助成の対象	1. 北海道内で活動する「住民団体やグループ」で活動実施に要する資金の確保に困難をきたしている団体。 2. 自主性(特定の企業、政党、宗教団体などから独立して運営)をもって運営され、非営利並びに情報公開の実施を原則としている団体。			
助成の対象となる費用	活動のため必要な会議費、研修費、備品・機材等の購入費、ＰＲ資料などの作成費、また、活動団体の運営に最低限必要な経費。 ※下記の費用は助成対象として認められません。 飲食費、講師謝礼、報酬、人件費、建物の増改築、附帯設備の整備、高額高機能な機器・備品や作業機械等、研修旅行費、高額な交通費等			
助成限度額	1団体あたりの助成限度額は50万円を限度とします。 ※助成金を運用できる期間は原則として単年度となります(交付日～翌年3月迄) ※選考の結果、助成額が要望額より減額することがあります。			
募集、決定、交付時期について		募集時期	決定時期	交付時期
	１次募集	3月１日～3月31日	5月中旬	決定から１ヶ月以内
	２次募集	9月１日～9月30日	11月中旬	
	※1次募集、2次募集どちらも助成金決定後～平成31年3月31日の期間実施する活動に対しての助成金になります。なお、助成金決定以前の活動をさかのぼって対象とすることはできません。			
応募方法	募集(応募)要領に基づき、規定の様式により要望内容を書類で提出していただきます。			

※「赤い羽根共同募金助成金募集(応募)要領」ならびに「申請書様式・記入例」は、北海道共同募金会ホームページ「助成情報」からダウンロードが可能です。
http://www.akaihane-hokkaido.jp/sikumi/sikumi_jyosei_p1.html

お問合せ

共同募金運動への
ご理解・ご支援をよろしくお願い致します。

社会福祉法人 **北海道共同募金会**

〒060-0002 札幌市中央区北２条西７丁目1番地 かでる2・7 ４階
TEL 011-231-8000 FAX 011-231-8003
ホームページ http://www.akaihane-hokkaido.jp

はぁと♥ステーション

道内の福祉施設・事業所・関係団体等の取り組みを毎回ご紹介します

～安心して子育てが出来る施設を目指して～

母子生活支援施設とは、さまざまな事情で入所されたお母さんと子どもに対して、心身と生活を安定するための相談・援助を進めながら、自立を支援する施設です。

函館高砂母子ホームは、平成27年10月に建て替えが完了し、20世帯の母子が自立を目指して、日々子育てに奮闘しながら生活をしています。

当ホームでは、入所世帯の日常生活全般の支援から、安心して就労できるように早朝保育、下校後の学童保育、病気の際の病児保育を行っています。また、入所している親たちが休日就労する際の保育支援、退所後の母子に対する支援、地域に向けた学童保育等も行っています。

学童保育時は近隣の公園に行ったり、学校が休みの日は料理教室やレクリエーション等の室内活動を行う他、長期休みには市民プールや函館山登山、秋には大沼手漕ぎボート体験、冬は大沼氷上体験ツアー等、一年を通して人と自然とのふれあいにより心身ともに健やかに成長できる様々な体験をしています。

また、同敷地内で運営している母子家庭等就業・支援センターでは、就労相談の他に資格取得に向けた短期大学や各種研修への申し込み支援も行っており、保育士や介護士資格を取得し就労・自立していった入所者も多く、母親の就労と子育てとの夢の実現の支援を行っております。

日常の支援はもちろん、日々の入所者とのコミュニケーションの中で、母親と子どもたちが自分の強さを取り戻し、心身ともに安定して自立し、退所後に「ここに住んでてよかった」と言ってもらえるよう、これからも職員一人一人が寄り添いながら支援していきたいと思います。

学習室活動　函館山登山の様子

社会福祉法人
函館市民生事業協会
母子生活支援施設
函館高砂母子ホーム
（函館市）
TEL 0138-23-4020

ほのぼのカフェ　ほっとちゃんクイズ　第3回目

こんにちは。道内の社協のイメージキャラクターのほっとちゃんです。
時々、道内の社協イベントに参加して、クイズを出題します。

正解者の中から抽選で3名の方に、11ページで紹介した授産製品のうちひとつをプレゼントします！
（なお、プレゼントする製品は、本会にて選ばせていただきます。）

「ほっとちゃん、カーリンコンを知る」の巻

平成30年1月29日に、苫小牧市で「ニュースポーツ啓発普及事業カーリンコン講習会」を開催したよ♪

ニュースポーツ啓発普及事業として、今年度は七飯町や北見市、苫小牧市で開催して、カーリンコンなどのニュースポーツ（世代等を問わず幅広い方が楽しめる新しい軽スポーツ）を多くの人に体験してもらったんだ。

どの会場もたくさんの笑顔と共に、とってもにぎやかな講習会になったんだよ。

冬の厳しい北海道では、室内で気軽に楽しめるスポーツは人気が高まりそうだね。講習会をきっかけに、地元で継続してたくさんの人に楽しんでもらえるといいな♪

クイズ

今回体験した「カーリンコン」は、平昌オリンピックで女子が銅メダルを獲得し盛りあがった「カーリング」に似ているスポーツです。氷の上ではなく床の上で行い、数メートル先のポイント（標的となる円盤）に向かってCDと同じくらいの大きさのディスクを投げ、どちらのチームのディスクが近いかを競います（右の写真でほっとちゃんの横にある赤と緑のディスクを投げます）。さて、2006年に大阪で誕生したこの「カーリンコン」は、2つの由来からその名称がつけられました。1つは「カーリング」からですが、さてあと1つは何でしょう。

①「コミュニケーション」を短くまとめたところから
②「カーン コーン」とディスクがぶつかり合う音から
③みんなで（「混」合）・楽しく（「懇」親）の想いから

★読者プレゼント★

○応募方法

はがきに①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤年齢 ⑥クイズの答え ⑦広報誌『明るい社会』への感想や今後『明るい社会』で取り上げてほしいテーマをご記入の上、**平成30年4月27日（金）［当日消印有効］まで**に、右記のあて先へご応募ください。

※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。
※応募はお一人様1通限りとさせていただきます。
※ご応募いただいた方の個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外には利用いたしません。
　感想等については、本誌へ掲載させていただく場合があります。

【応募先】
〒060-0002
北海道札幌市中央区北２条西７丁目
１番地　かでる２・７内
北海道社会福祉協議会　地域福祉課
『明るい社会』第3号
読者プレゼント 係

前号（2号）の答え★ ①ねこ

授産製品紹介
きらきら☆マルシェ

北海道社会福祉協議会
北海道障がい者就労支援センター

道内の障がいを持った方々が、その人の個性や能力に合わせながら、施設や作業所で、自立生活に向けた作業・訓練の一環として作っている製品をご紹介します。

②

事業所名
社会福祉法人　栗山ゆりの会
多機能型事業所　ハローＥＮＪＯＹ［栗山町］
社会福祉法人　栗山ゆりの会
多機能型事業所　ハローＥＮＪＯＹ［札幌市］

商品名 **おからクッキー各種**　容量:60g　230円
商品名 **ふきん各種**　250円
商品名 **ビーズコースター各種**　大400円、小300円
（大13cm×13cm、小10cm×10cm）
※すべて税込／送料別

栗山町のハローＥＮＪＯＹでは、栗山町産と近隣の由仁町産の大豆を使用した〝おから〟クッキーを作っています。たまごは栗山町産、小麦は北海道産を使用しています。

「健康に気を使いたい」、「甘い物は好きだけど甘過ぎるのはちょっと…」というお客様にはぴったりです。現在は９種類を製造しています。種類によって、〝ざっくり〟、〝サクサク〟とした食感の違いも楽しめますので、気持ちもお腹も満たされて明日に向かって頑張れるクッキーです。

また、ハローＥＮＪＯＹ札幌ではふきん、ビーズコースター、コースター（玉ねぎ染）などの手工芸品を製作しています。手芸品の柄や色などは沢山のパターンがありますので、お気に入りの商品を見つけてください。

※購入先：おからクッキーは多機能型事業所　ハローＥＮＪＯＹ（栗山町）、元気ショップいこ～る。手芸品は各種販売会、札幌駅の元気ショップいこ～る、大通駅の元気ショップなどの福祉ショップにて常時販売。

問い合わせ先　TEL　0123-76-3656（栗山町）
TEL　011-881-7238（札幌市）

①

6種類の異なる材質で中身を選べます

事業所名
社会福祉法人　北海道光生会
サポートステーション・ステップ［美唄市］
社会福祉法人　北海道光生会
サポートステーション・ステップ　岩見沢事業所［岩見沢市］

商品名 **クッション**　500円～1,500円前後（40cm×40cm他）
※中身は、ウレタン・低・高反発など多数
商品名 **抱き枕**　1,000円（90cm×20cm）※ウレタン
※すべて税込／送料別

本製品は、ウレタンや低反発、細かい粒子の発泡スチロール粒が特徴のパウダービーズなど全６種類の中身が選べます。また、サイズもご要望に応じてお作りしますので、様々な用途にぜひご利用下さい。

その他、エプロン・枕・敷きマット等多数の縫製製品を取りそろえておりますので、近所にお立ち寄りの際はぜひ一度ご覧ください。

これらの製品は、美唄・岩見沢の事業所以外にも「ピパの湯ゆ～りん館」、「奈井江道の駅　みみずく」等でも販売しています。

問い合わせ先
［美唄市］
TEL　0126-66-1133　FAX　0126-66-1120
メール　ssstep@lapis.plala.or.jp
［岩見沢市］
TEL/FAX　0126-20-1521
メール　ssstepiwamizawa@bz04.plala.or.jp

③

かわいい動物がいっぱい

事業所名　社会福祉法人　共友会　生活介護ぐれいす

商品名 **クッキー**
- 円山動物園クッキー　5枚入り　310円
- かばクッキー　180円
- とら、らいおんクッキー　各160円
- ジンジャークッキー　200円
- ママッキー　140円

商品名 **白くまアソート**　500円
商品名 **パウンド各種**　100円
商品名 **キューブ、ハートフル、パンプキンサブレ**
各5枚入り　200円
3枚入り　100円
※すべて税込／送料別

円山動物園クッキーは、皆で作れるよう道具を工夫したり、型を独自に用意して製作しています。また、クッキーを入れる白くまの紙袋もオリジナルで手作りしています。

クッキーの材料は、道産食材をなるべく使うようにし、道産小麦の雪んこやかぼちゃパウダー、バター100%、アルミフリーのベーキングパウダーを使っています。

卵アレルギーの方には卵なしのクッキー、小麦アレルギーの方には米粉100%のマドレーヌなど、希望があれば考案して作っています。

当社でも、直接販売していますので、是非、お立ち寄り下さい。

なお、円山動物園西門オフィシャルステーション内（動物園クッキー）や、元気ショップ、元気ショップいこ～る、札幌市役所売店、市立札幌病院ファミリーマートでも販売しています。

問い合わせ先　TEL　011-667-7771

＜ナイスハートネット北海道からお申し込みいただけます＞

北海道社会福祉協議会では、北海道が推進する「障がい者就労支援推進計画」に基づき、企業や団体と授産事業所をマッチングさせ、授産事業所等の商品、役務を広く企業や団体の方にご利用頂くためにホームページを開設しています。今回ご紹介した商品も取り扱っており、ホームページ上で仮申し込みができます。
（ホームページ上では決済できないため、申し込みを一旦道社協において受け付け、事業所へ発注します。）

ホームページアドレス　http://nice-heart-net.jp/　ナイスハートネット　検索　クリック

図書資料室から こんにちは

道社協図書資料室から
おすすめの本やDVDをご紹介します。

BOOK 『日本の社会教育第61集 子ども・若者支援と社会教育』

定価/2,900円(税別)

編　著:日本社会教育学会
出版社:東洋館出版社

1990年代以降の社会構造の変化による就労環境の悪化や世帯間の格差は、子どもの貧困や非正規雇用の増加など、家族機能の低下や所得格差、価値観の変容をもたらしました。

これらの問題に対し、当事者だけでは解決しにくい福祉・就労支援を含め、子どもや若者が大人へと移行するための自立や日常生活への適応能力を支援する「社会教育的支援」が、どのように行われているかの歴史的検証を行っています。

また、本書はこれまでの実践を現代の課題と照らし合わせ、日本社会教育学会のプロジェクト研究(2013-2016年度)の成果を年報としてまとめられており、社会教育の視点で問題解決の糸口を探る一冊となっています。

BOOK 『現代教育福祉論 ―子ども・若者の自立支援と地域づくり―』

定価/2,400円(税別)

著　者:辻　浩
出版社:ミネルヴァ書房

「教育福祉論」とは、戦後の経済成長の裏側で見落とされている貧困、障がい、差別などの不平等に対して、教育と福祉が連携し、人間の豊かな発達と生活基盤の安定を同時に保障する必要性を提起したものです。これに「現代」ということばを追加し、今日の産業構造の変化に伴い複雑化した問題が加えられています。これらの問題に対し、近年、解決に地域の人々が協力しており、結果として、子どもや若者の自立支援が地域づくりにもつながっています。

本書は、教育と福祉が更なる連携を強め、子どもたちの周りに起きている様々な課題や現象について解決し、豊かな成長と発達をはぐくむにはどのようすればよいのか、歴史的背景等を踏まえて、教育改革と地域づくりの視点から明らかにします。

●道社協図書資料室のご案内
利用時間　平日(月～金)10時～16時
住　所　札幌市中央区北2条西7丁目1番地　かでる2・7　2階
電　話　011・241・3976(代表)

平成29年度全道福祉の学習推進セミナーを開催

平成30年1月10日、北海道社協、北海道ボランティア・市民活動センターと札幌市社協、札幌市ボランティア活動センターの共催で、標記セミナーを札幌市で開催しました。

セミナーには、福祉教育に携わる全道の学校や特別支援学校の教職員、社協職員、民生委員児童委員など、約60名の方々に参加いただきました。

近年、地震や津波などのあらゆる災害の発生により、これまで行われてきた避難訓練のみならず、地域を巻き込んで行われる防災教育を取り入れる学校や町内会等が増加傾向にあります。

そこで、今年のテーマは、「防災教育を福祉の視点で考える」と題して、小学校や社会福祉協議会で取り組まれている防災教育の活動について発表いただきました。

また、午後からは2つの分科会に分かれ、防災教育の教材の一つである防災かるたを通じて福祉の視点を考える取り組みや、避難所生活を考える体験学習の取り組みについて学びました。

これらの内容をとおして、地域と学校が一体となって防災教育に取り組むことの重要性を再認識できたのではないでしょうか。

日頃関わることの少ない学校関係者や地域での実践者が一堂に集う数少ない研修会です。

今回の機会で得た情報が、これからの地域や学校での実践に生かされることを期待しています。

【編集後記】

北海道の長い冬もそろそろ終わり、季節はもうすぐ春になります。入学したてのピカピカなランドセルを背負った子どもたちが、街にあふれる時期ですね。さて今号では、そんな子どもたちが、障がいの有無を問わず集う「おもちゃ図書館」について特集しました。

子どもたちの大好きなおもちゃや遊びを通して、子どもたち同士だけではなく、地域の人々と交流できる身近な場としても、今後の活動を期待したいものです。(A)

明るい社会
No.686
平成29年度 第3号
発行/社会福祉法人 北海道社会福祉協議会　http://www.dosyakyo.or.jp
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目1番地　TEL 011-241-3976　FAX 011-271-3956
定価/120円(会員90円・一括25円)
印刷/(株)北海道機関紙印刷所

『明るい社会』は、赤い羽根共同募金の助成金を受けて作成しています